

(旧) 県民交流広場 全県オフィシャルホームページ 掲載記事

掲載コンテンツ：リレーコラム

掲載時期 平成 23 年 9 月

テーマ 県民交流広場開設を起爆剤に住民が集う居場所づくり

寄稿者 姫路市青山地区 安全で安心な活力ある街・青山まちづくり協議会

青山地区は、姫路市の西北部に位置し、人口約 13,000 人・世帯数約 4,600 戸の地区です。昭和 40 年代後半から人口が急激に増加し、人口の 9 割以上は新たに転入した人です。

交流広場開設にあたり、拠点の設置場所に苦慮しましたが、最終的に青山自治会所有の 3 階建て集会所を改修することになり、主に 170 人収容の 3 階大ホールを整備しました。この集会所は、地域の氏神さんと隣接しているので、神社境内と一体的に活用できるのも特徴です。

活動は、従前の引継ぎではなく、全て新たに企画立案しました。広場開設前に子育て中の親を対象にワークショップを 6 回実施し、その後 1,300 世帯を対象にしたアンケート調査を実施し、地域課題を把握。県民交流広場事業で地域課題解決に向けた活動を展開しています。

主な事業として、毎月 1 回、子育て中の親子を対象として、昔遊びや伝承遊びを取り入れた「親子なかよしひろば」を開設しています。参加対象者は、地域を限定せず、広く受け入れています。

また、高齢者同士の交流の場所として、毎月 1 回「ふれあい喫茶」を開催しています。その際、地域の福祉事業者の協力を得て、血圧測定や福祉相談を併設、集会所ホールには舞台があるので、演奏会や落語会など様々な催しも同時開催し、地域の高齢者が孤立、孤独にならないよう情報を発信しています。

他にも、夏休みの早朝に「ふれあい探検ウォーク」を開催したところ、約 400 人の住民が参加し、地域の名所旧跡を巡ることで、青山の歴史を知ることができ、郷土愛が芽生える良い機会になりました。

「昔遊び・伝承遊びフェスティバル」も好評のイベントです。来年 1 月の開催で 3 回目になります。イベントの一端を紹介しますと、交流広場と神社境内をフィールドに、参加者は、餅つき、こま回し、けん玉、カルタ取り、昔ばなし、伝承遊び、竹馬などをスタンプラリー

形式で回り、スタッフとふれあいながら体験します。活動に従事するスタッフは、地域の子ども会や老人会、幼・小・中のPTA、民生・児童委員、学校の先生、ボランティアなど100人を超えています。イベントには高齢者を巻き込み、これまでの経験を発揮できる場としています。実際、高齢者の方々は、昔取った杵柄の分野で、いきいきと参加者と交流しておられます。このように世代を越えた多くの方が交流できるイベントとして、これからも継続していきたいと思っております。

青山地区の全ての活動は、まず初めに事務局が素案を作り、各種団体と協議します。素案はたたき台であり、原型がなくなることもあります。スタッフは、一からイベントを作り上げる楽しさを体験しています。

今後も、県民交流広場を活用した地域づくり、誰もが気軽に集える「こころの居場所」づくりに励んでいきます。